

[早良演習林]早良演習林における研究の概要

垣内, 重三郎
九州大学農学部附属演習林 : 助手

<https://doi.org/10.15017/1456126>

出版情報 : 演習林研究経過報告. 昭和37年度, pp. 57-58, 1963. 九州大学農学部附属演習林
バージョン :
権利関係 :



早良演習林

早良演習林における研究の概要

垣内重三郎

昭和37年度に実施した主要項目は次のとおりである。

1. 研究林野としての機能の発揮

本演は、福岡市の西端に位置し、交通が便利のため市民に利用されやすく、また、附近には部落が多数散在するため、人為による被害が発生しやすい状態にある。そこで、本演を各種研究の場として利用するためにも、また、国有財産の管理という観点からも、これに対する対策には、特に意を注ぐ必要がある。このような観点から、従来からも森林の保全、境界の確認等に力を注いできたが、本年度は、県道沿に延長1733mにわたって柵杭を設置して人為による被害を減少せしめる処置をとった。

2. 森林蓄積の現況調査

本演の林木構成ならびに蓄積の調査は、昭和4年に田中教官により、昭和32年に大学院学生林重佐氏により実施されたが、その第3回目の調査を昭和37年12月より昭和38年1月にわたって実施した。

i) 方法

全林を調査対称とし、まず、東西50m、南北20m間隔に測線を格子状に入れ、測線に囲まれた部分を1プロット(50m×20m=0.10ha)し、プロット別に毎木調査(胸高直径6cm以上)を行なった。

ii) 結果

今回の調査結果を過去2回の調査結果と比較した結果は次表

(52)

のとおりである。

とりまとめ表

項 目	昭和4年 調 査	昭和4年 より37年まで の伐採量	昭和32年 調 査	昭和32年より 37年までの 伐採量	昭和37年 調 査
本 数	28,627	8,439	22,065	960	22,782
材 積 (m^3)	8,200	1,804	8,527	398	9,299

iii) 考 察

本数の推移をみると、昭和4年より昭和32年までの28年間に $22,065 - (28,627 - 8,439) = 1,877$ 本の増、昭和32年より37年までの5年間に $22,782 - (22,065 - 960) = 1,677$ 本の増を示している。これは、昭和初期の造林木が胸高直径6cm以上の調査対照木にまで成長していることを示すものである。

次に、材積成長量をみると、昭和4年より32年までの間に $8,527 - (8,200 - 1,804) = 2,131 m^3$ 、(1年当り $76 m^3$)、昭和32年より37年までに $9,299 - (8,527 - 398) = 1,170 m^3$ (1年当り $234 m^3$)の成長を示しており、海岸林ではあるがかなりの成長を示すことがあきらかとなった。

3. そ の 他

見本園の手入、気象観測等を実施した。